

7 その他全般的事項

<工学部 宇宙航空理工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
全科目を対面授業で実施	令和2年4月7日に出された新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言の対象地域が、令和2年4月16日に全都道府県に拡大されたことに伴い、休校措置を講じていたが、5月1日施行で学則を改正し、5月7日から前期開講の実験・実習等を除くほとんどの授業科目については多様なメディアを利用した授業形態で実施することとして、授業を再開した。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・ FD・SD委員会を設置している。
- ・ 同委員会の下に、FD活動WG、SD活動WG、FD活動評価点検委員会を置いている。
- ・ 学長の下に、教育活動顕彰審査選考委員会を置いている。
- ・ 委員会規程は別添のとおり。（中部大学FD・SD委員会規程、中部大学FD活動評価点検委員会規程、中部大学教育活動顕彰規程、中部大学教育活動顕彰審査選考委員会規程）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ FD・SD委員会：開催回数3回、委員32人（委員長は学長）、参加人数第1回30人、第2回27人、第3回28人
- ・ FD活動WG：開催回数6回、委員11人（WG長は大学企画室高等教育推進部長）、参加人数第1回11人、第2回11人、第3回11人、第4回10人、第5回11人、第6回10人
- ・ SD活動WG：開催回数2回、委員8人（WG長は大学事務局長）、参加人数第1回8人、第2回7人
- ・ FD活動評価点検委員会：開催回数3回、委員11人（委員長は大学企画室高等教育推進部長）、参加人数第1回11人、第2回7人、第3回10人
- ・ 教育活動顕彰審査選考委員会：開催回数2回、委員19人（委員長は教育担当副学長）、参加人数第1回18人、第2回19人

c 委員会の審議事項等

- ・ FD委員会
 - ①FD・SD活動の在り方に関する事項 ②FD・SD活動の実務に関する事項 ③教育職員の顕彰に関する事項
 - ④教育職員の資質開発を図るための組織的な研修に関する事項 ⑤その他FD・SDIに関し必要な事項
- ・ FD活動評価点検委員会
FD活動及び教育活動顕彰制度に関する事項の評価点検に関すること。
- ・ 教育活動顕彰審査選考委員会
教育活動顕彰制度に係る重要事項及び表彰対象者の審査及び選考に関すること。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 新任教員説明会
- ・ 教育活動重点目標・自己評価シートの設定
- ・ FDフォーラム、FD・SD講演会
- ・ 学生による授業評価
- ・ 教員による授業自己評価
- ・ 授業改善アンケート
- ・ Cumoc（キューモ：Chubu University Mobile Clicker）システムの提供
- ・ 授業改善ビデオ撮影支援
- ・ 授業のオープン化制度（全学公開授業、授業サロンの開催を含む。）
- ・ CURルーブリックライブラリ（Chubu University Rubric Library）
- ・ 教育活動顕彰制度
- ・ FD活動評価点検
- ・ 教員キャリアアッププログラム
- ・ FDカフェ
- ・ 教職員総会（SD）
- ・ FD活動支援経費の補助
- ・ 学部・研究科FD委員会

b 実施方法

- ・ **新任教員説明会**
FD活動全般及び教育活動顕彰制度について、採用日の辞令交付後に実施。
- ・ **教育活動重点目標・自己評価シートの設定**
専任教員全てが、各学部が定めた教育活動、学務活動、社会貢献等に関する項目について重点目標を定め、学部長、学長に提出し、年度末に自己評価を行い、その結果を学部長、学長に提出。
- ・ **FDフォーラム、FD講演会**
FD委員会が企画し、大学教育等の改革、改善、質的向上の推進を図るため、学内外の講師により全教職員に案内して実施。
- ・ **学生による授業評価**
各学期末（年2回）に、学生の全履修科目について、Webを利用して実施。その結果及び担当教員のコメントをWeb上で、全学生及び教職員が閲覧可能。
- ・ **教員による授業自己評価**
各学期末（年2回）に、教員が担当する授業科目について、基本項目、授業目的、熱意態度、授業方法、授業運営、内容理解、総合評価、学生に対する認識等の設問項目により実施。
- ・ **授業改善アンケート**
授業担当教員が該当科目の開講期間中に、受講生と担当教員のみの方方向コミュニケーションツールとして、Web上で学生の意見を聴き、反映することができるシステムを提供。
- ・ **Cumoc（キューモ）**
「授業改善アンケート」システムにおいて、受講生が携帯電話、パソコンを利用して回答するクリッカー機能のことで、授業中に教員が作成したアンケートに対し、受講生からの回答をリアルタイムに集めて、その結果を教員と受講生が一緒に見ながら授業を進める双方向対話型の授業を構築していくためのツールを提供。
- ・ **授業改善ビデオ撮影支援**
大学教育研究センターがメディア教育センターと協力して、講義室に出張撮影し、撮影した映像をDVDなどに記録して教員に提供。
- ・ **授業のオープン化制度**
他の教員の授業を参観して更なる授業改善への模索を行うべく、原則として全ての授業のオープン化を実施。
- ・ **全学公開授業**
授業担当者が授業を公開することで、自分の授業の課題を明確にし、抱えている問題や悩みに関するアドバイスを得る場として位置づけ。

- ・ **授業サロン**
異なる分野、文理の壁を越えた教員（5人程度）が、互いの授業見学を行い、授業の考え方、工夫、改善等について情報・意見交換を通じて、授業改善のヒントを見出すことを目的として実施。
- ・ **CUルーブリックライブラリ（Chubu University Rubric Library）**
教員が自ら作成したルーブリックの「蓄積」を行い、互いに「共有」することで、ルーブリックの「作成支援」に繋げることを目的に運用。
- ・ **教育活動顕彰制度**
教員の教育活動に係る業績、学生による授業評価、学内行政（学務活動）・社会貢献に係る業績などを評価項目とし、教育活動全般を総合的に評価して、特に優れた活動をした者に対する教育活動優秀賞及び特筆すべき教育活動実績を挙げた者に対する教育活動特別賞の2種類の表彰を施行。
- ・ **FD活動評価点検**
全学・学部等で実施したFD活動の目標、取り組み、課題等について、評価・点検を行い、学内外に公表。
- ・ **教員キャリアアッププログラム**
授業デザイン、授業技術・運営、情報通信技術等について学内外の講師により、大学教員に求められるこれらのスキルアップを図るプログラムの実施。
- ・ **FDカフェ**
大学教育に関する様々なテーマ等について、教職員が自由に意見を交わすことで情報やスキルを共有する場の提供。
- ・ **教職員総会（SD）**
各学期の初めに実施する。春学期においては、理事長から学園方針を、学長からは大学方針を説明。秋学期においては、「教育・学生支援」「研究」「総務」等について、それぞれの担当副学長から説明。
- ・ **FD活動支援経費の補助**
教員間におけるFD活動を奨励、支援し、教育活動を一層充実させるために、学科、教室等のFD活動に対し、その計費の一部を補助。
- ・ **学部・研究科FD委員会**
学部・研究科の現場における実行組織

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ FDフォーラム：令和元年度は開催せず
- ・ FD・SD講演会：開催回数2回、第50回56人、第51回150人
- ・ 授業サロン：開催回数2回、第1回5人、第2回5人
- ・ 全学公開授業：開催回数2回、第32回11人、第33回9名
- ・ 教育活動顕彰：教育活動優秀賞受賞者12人、教育活動特別賞1人
- ・ 教員キャリアアッププログラム：開催回数14回、第86回7人、第87回9人、第88回8人、第89回16人、第90回9人、第91回10人、第92回10人、第93回5人、第94回22人、第95回4人、第96回6人、第97回10人、第98回11人、第99回9人
- ・ FDカフェ：開催回数1回、第27回21人
- ・ 教職員総会：開催回数2回、春学期585人、秋学期558人

※学部・研究科FD委員会は、活動目標、取り組み状況、課題と今後の取り組みを掲げて常時活動している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

本学では、全学的な組織として「FD・SD委員会」を置き、その下に「FD活動WG」、「SD活動WG」及び「FD活動評価点検委員会」を置いており、これらの委員会を中心として、上記の活動内容の結果を踏まえつつ、より個性的で多様化した授業改善・教育活動の向上を図るべく、積極的にFD活動に取り組んでいる。

一方、教育活動顕彰制度により、教育の一層の改善を図るため、教育活動の分野において、優れた功績を挙げた教育職員や教育組織を顕彰している。

また、毎年、「教育・研究活動に関する実態資料（1年間に行った教育、研究、社会貢献、大学運営に関する活動の基礎的なデータ集）」及び「中部大学教育研究（大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供し、教育改善・質的向上に役立てるための学内雑誌）」を教職員に配布し、PDCAサイクルの自己点検評価等の基礎的資料としての活用を求めている。

なお、学部・研究科FD・SD委員会では、常時活動を続け、教育プログラムの変更、授業内容の変更等まで踏み込んで、魅力ある授業づくりに取り組んでいる。

さらに、平成20年度から毎年度、主に組織を単位として行っているFD活動についての評価点検を実施し、「FD活動評価点検報告書」として、ホームページで公表している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 授業改善アンケート・CUMOCシステム稼動：春学期 令和元年4月～9月、秋学期 令和元年9月～平成30年3月
- ・ 「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」：令和元年7～8月、令和2年1～2月
- ・ 「学生による授業評価」の結果に対する教員のコメント入力：令和元年8月から9月、令和2年2～3月
- ・ 「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」の結果公開：令和元年9月～、令和2年3月～

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価の結果は、数値だけではなく、学生の皆さんから寄せられた自由記述のまとめと授業評価に対する教員からのコメントも在学生、教職員向けに公開している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

工学部宇宙航空理工学科は、平成30年度に設置したところであり、その設置の趣旨・目的・教育目標等を着実に実行するため、全学一体となって更なる魅力ある授業づくり、学生による授業評価等を実施し、教育研究水準の向上、教育の質の向上に努める。

学生定員80人に対し、開設年度に81人、令和元年度に74人、令和2年度に89人(平均定員超過率は1.01倍)の入学者を受け入れて、流体力学、空気力学、工業熱力学等を基礎として、宇宙・飛翔体・高速輸送システム、航空システム等の基盤の専門知識を修得させるとともに、学際的・複合的な新しいロケット、宇宙ステーション、航空機等を包含する次世代宇宙航空産業における製作技術に関わる生産現場のリーダーとなりうる人材(技術者)の育成に邁進し、学生を輩出する際には、社会の高い評価が得られるように努める。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・ 令和2年9月 公表予定

b 公表方法

学内外に向けて、ホームページで公開する予定。

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 「(財)日本高等教育評価機構」の評価を受け、平成27年3月に大学評価基準に適合していると認定されている。
- ・ 令和2年度に「(財)大学基準協会」の認証評価を受審予定。

- (注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。